授業科目名称 : 観光まちづくり論

授業コード : 12609

授業科目英文名称 : Tourism Community Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2	2	選択
担当教員			
森尾 真之 (実務経験のある教員)			
展開方法	講義		
ナンバリング	CA222		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・一般的な地域課題(経済、生活、環境)について、その背景や課題相互の関連性について説明できる。 ・観光まちづくりについて、また観光マーケティングについて説明することができる。	課題レポート◎	30%
情報収集、分析力	・地域課題の背景を理解し、観光まちづくりの事例について情報収集し、講義の内容をより深く理解することができる。 ・グループワークで、チームで決めたテーマをもとにAIを活用したアイデアを提示することができる。	課題レポート◎ 企画書ワーク○	20% 10%
コミュニケーション力	グループで提案した企画案のオリジナリティを生かした発表を行うことができる。	企画書ワーク○	10%
協働・課題解決力	グループワークにおいて、チームの意見をまとめ、差別化できる企画案を提案することができる。	企画書ワーク○ 授業への取り組み	20% 10%
多様性理解力			
	出席	受験要件	
	合計	100%	

授業のねらい	本講座は、人口減少に伴い縮小する地域の課題についての理解を深め、地域を持続可能で豊かな生活を維持するための観光の在り方を考える講義である。観光がどのように産業の継承やまちづくりに関わるのかを、新しい観光の価値観における地域と観光の適切なかわり方を考え、地域活性化への具体的な取り組みや指標について学ぶ。講義では、具体的な観光まちづくりやツーリズム事例を通じた地域における実務者、実務経験のある担当教員との協働による実践的な授業である。観光マーケティングにおいてはフレームワークを利用して、グループワークでの着地型観光商品の企画にも取り組む。		
アクティブラーニングの類型	① 予習を課し、それをもとにした授業 ② 授業の導入段階で授業テーマに学修者が興味・関心を持つように工夫する授業 ⑥ ある課題について調査した結果を個人やグループで発表させる授業 ⑩ 学期途中で課題をだし、レポートを纏めることによって能動的な学修を喚起する授業		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	1) 課題レポート(配点合計 50%)では、自分が特に関心を持った地域課題について、自分自身の問題意識と考えられる方策についてレポートとして記述することを求める。Manabaでの質問については、ゲストスピーカーからの回答を講義中に紹介、またはポートフォリオから学生へのフィードバックとする。 (2) 企画書ワーク(配点合計 40%)については、グループで考えたテーマをもとにした企画提案をベースにしたものとする。フィードバックについては、外部講師および担当教員から行い(30%)。優れた企画に関しては講義内での発表を行ない評価対象とする(10%) (3) 授業への取り組みについては、出席及びレポート提出回数、ワークの授業態度を評価対象とする(10%)		
授業概要	観光まちづくりに関する実務家である外部講師と旅行実務の経験のある担当教員との協働による実践的な授業である。講義の学びの主な到達点は、下記の4つである。 (1) 地域課題を実際に目の前で起こっていることとつなげて考えることができる。 (2) 観光まちづくりの方法や具体的な効果について、新しい観光の方向性を踏まえて説明することができる。 (3) 観光マーケティングについて、その必要性や具体的な手法について、実際に運用し、説明することができる。 (4) 観光商品の開発においてAIなどの情報を活用して、地域活性化と観光振興の両面から意義ある企画を立案できる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。		
教科書・参考書・指定図書	教科書：なし 参考書：なし(※ただし講義中に講師から推薦される場合もある。) 指定図書：十代田朗著(2024)『新しい観光学』観光とリゾート、そしてオルタナティブ・ツーリズム		
授業外における学修及び学生に期待すること	本学が立地する大村湾岸はハウステンボスを中心とした、新たな観光振興の取り組みの可能性の宝庫であり、本講義を通して手付かずになっている観光企画商品の開発の一助となることが期待されている。あらゆる分野の産業やコンテンツとの連携が可能であり、観光学科の多くの学生に体験してもらうことで、それぞれのキャリア選択に意義のある経験となることが期待される。		
授業計画	回	テーマ	授業の内容 予習・復習

1	オリエンテーション 「観光の視点」とは	シラバスの説明、地域課題の背景やポイントを整理して考える。また、各予定外部講師の簡単な紹介やしかるべき対応態度などの注意点について説明。	予：シラバスを事前に読み込んでおく。
2	観光まちづくりの視点① これからの世代が関わる「まちづくり」とは	地域の衰退が進む背景にある、経済成長一辺倒という価値観は、どんな社会を作ってきたか。これからの地域のまちづくりにおいて必要となる、新しい「ものさし」とは一体どんなものか。そしてそれに伴う新しい観光の概念とはどんなものか。	復：新しい観光のニーズにおける「異日常」とは。
3	観光まちづくりの視点② 持続可能な観光に取り組む意義とは	観光は地域の活性化にどのような貢献ができるのか。経済活動である「観光」と地域社会で住民が主体となって生活環境の改善を図る「まちづくり」が同時に展開されている。	復：観光消費額における「地域調達率」とは何か。
4	観光まちづくりの視点③ 地域主導の内発的なまちづくり	住民が主体的な地域ではどんな取り組みが行われているのか。持続的な地域の暮らしと観光の両立のための地域主導の内発的なまちづくりがどのように行われるべきなのを考える。（外部講師）	復：地域活性化の取り組みのゴールは何か。
5	観光まちづくりの視点④ これまでの観光政策と新たな担い手	官製主導による地域振興策による大規模開発やマスツーリズムにより観光地は疲弊した歴史と、オーバーツーリズム（観光公害）など、経済成長一辺倒の観光の在り方を考える。観光の力で地域の経済活力を高め、利害関係者と調整しながら地域主導の観光地づくりを推進するDMOの組織と役割について学ぶ。	復：これまでの官製主導の観光がもたらした負の遺産とは何か。オーバーツーリズムの背景にあるものは何か。
6	観光まちづくりの視点⑤ 新しい観光アプローチ～再生型観光へ	観光で地域を再生することは、経済効果だけでなく、地域資源への再投資も重要な視点である。その方法として、地域の魅力を形づくってきた共有財の再生の仕組みづくりの可能性に議論が及んでいる。	復：環境と観光との共生に対する主体的な住民の関わりで大切なことは何か。
7	観光まちづくりの視点⑥ 斜面地の魅力と中心市街地活性化、「関係案内所」の取り組み	風光明媚な多くの国内観光地には斜面地が多いが、一方で高齢者が住みにくくなり、街の営みやにぎわいが失われていく課題がある。コミュニティの関係性を維持し、空き家・空き店舗の再生、地域資源の保存や活用による中心市街地のにぎわい創出の取り組みを長崎市内の事例を通して考える。（外部講師）	復：地域の魅力を形作るうえで、住民自身はどのような役割を果たすのか。
8	観光をプロデュースする① マーケティングプロセスを概観する	地域の観光の担い手に求められるマーケティングについて学ぶ。新しいツーリズムに求められるのは、量的な目標に加え、市民生活こそが観光資源であるという視点が必要である。観光商品を企画するにあたってのマーケティングプロセスを概観する。	復：地域の豊かさとは何かを住民の目線から考える。
9	観光をプロデュースする② 地域をマーケティングする	観光の担い手「DMO」について、国が進める仕組みづくりとその機能について学び、観光地マーケティングの基本について学ぶ。（外部講師）	復：活性化のための国の施策についての理解を深める。
10	観光をプロデュースする③ (長崎の魅力を考える)	長崎の魅力は一つ一つのまちづくりの多様性の面白さと大村湾やサンセットロード、島原半島など景色の多様性である。我々の住む長崎の良さをどのように観光商品として発信できるかを考える。（外部講師）	復：オーバーツーリズムなど観光が地域に負荷をかける事例を考える。
11	観光をプロデュースする④ マーケティング・フレームワーク(1)	<グループワーク> 観光商品を考える上での、マーケティング・フレームワークを学び、現状分析と目標設定を行う。	予：自分が取り扱ってみたいテーマを考える。
12	観光をプロデュースする⑤ マーケティング・フレームワーク(2)	<グループワーク> 目標設定をもとに、AIを使って商品フレームを考え、テーマを絞り込む。	復：自分のテーマを生成AIを使って調べてみよう。
13	観光をプロデュースする⑥ マーケティング・フレームワーク(3)	<グループワーク> 企画を差別化できる要素(KFS)を考え、企画立案を完了させる。	予：誰の何のための企画であるとよいのかを考える。
14	地域でのキャリアを考える	大学のある長崎県での地域とともに歩むキャリアを考える。（外部講師）	復：地域に貢献する自分のイメージはどんなものか。
15	観光をプロデュースする⑦ 観光商品発表	グループの中から観光企画商品発表。	復：地域に関して学ぶことの大切さを整理する。